

教育研究業績

2026年 5月 1日

氏名 祥雲直樹

研究分野 看護学	学位 博士（看護学）
-------------	---------------

研究のキーワード

医療支援、医療・福祉職の協働、ワーク・エンゲイジメント

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例	平成28年4月～令和5年3月 令和5年4月～令和7年3月 令和7年4月～	東北文化学園大学にて、所属していた在宅看護領域、成人看護領域における講義の支援や実習指導、卒業研究の指導を行った。 医療創生大学にて老年看護領域における講義や実習指導、卒業研究の指導を行った。令和6年度は老年看護援助論や老年看護実習の科目責任者として講義・実習の運営を行った。コンサルテーション論の科目担当として、講義を実施している。 西武文理大学看護学部にて、老年看護学支援論 I・IIの講義を担当、また、老年看護実習指導を担当している。
2 作成した教科書、教材		担当する科目の講義資料、実習要項の作成・修正を行っている。また、東北文化学園大学、医療創生大学において国家試験対策に関わる補講の際の講義資料なども作成している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項	平成26年7月～11月 平成27年4月～7月 平成26年4月～6月 平成26年12月～平成27年3月 平成27年8月～平成28年3月	所属していた東北大学大学院医学系研究科の事業として、平成26年度は5ヵ月、平成27年度は4ヵ月浦谷町国民健康保険病院にて人材支援を行った。支援期間中、病棟看護師として入院患者で口腔内が著明に乾燥している患者が散見されたため、病棟看護師や言語聴覚士と協働して口腔ケア手技の見直しを行った。看護業務の見直しを行ったことは、学会などの場で報告した。 所属していた東北大学大学院医学系研究科が関わっていた事業として、介護・福祉施設に就業している介護職者20名程度を対象とした喀痰吸引等3号研修が実施されており、その講義と実技演習の講師として参加した。 同じく同部署の主催事業として、11月の世界糖尿病デーに合わせた市民対象の糖尿病啓発イベントを仙台市青葉区、宮城野区、石巻市にて行った。スタッフとして準備段階から関わり、イベントの実施と糖尿病の啓発を行った。
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概 要
1 資格、免許 看護師免許	2006年4月13日	免許番号 第1355842号
2 特許等		

<p>3 実務の経験を有する者についての特記事項</p>	<p>平成18年4月</p> <p>平成23年8月</p>	<p>仙台社会保険病院（現JCHO仙台病院）に就職し、腎臓内科病棟に配属となる。その業務の中で准看護学生の指導や、プリセプターとして新人教育に携わった。</p> <p>在職中、院内のBLS委員会に所属。院内で30名程度を対象とした一次救命処置の勉強会を年4回程開催した。また、他施設のスタッフも参加できる50名規模の心肺蘇生処置の勉強会を開催した。 （～平成23年7月）</p> <p>堀田修クリニックにオープニングスタッフとして就職した。在職時は、看護師主任としてクリニックの立ち上げに関わった。外来業務、往診業務、血液透析業務の実施に関わった。看護職員への実務オリエンテーション実施や、看護助手を対象とした疾病について、滅菌機器の取り扱い、消毒方法などに関する簡易な勉強会を行った。 （～平成26年3月）</p>
<p>4 その他</p>		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
<p>(学術論文)</p> <p>1. A県の精神科長期在院患者に対する看護職の地域移行に向けての看護活動の実態と関連要因の検討</p> <p>2. 東日本大震災後の幼児の保護者のストレスと健康上の変化:震災から6～9カ月後の沿岸部と内陸部における質問紙調査より</p> <p>3. 介護職からみた介護老人保健施設に勤める看護職の役割 介護職のワーク・エンゲイジメントとの関連から</p> <p>4. オンデマンド配信による遠隔授業実施に至る取り組み</p> <p>5. 精神障がい者に対応した地域包括ケアに関する文献レビュー</p>	<p>共</p> <p>共</p> <p>共</p> <p>共</p> <p>共</p>	<p>平成29年10月</p> <p>平成31年3月</p> <p>令和2年9月</p> <p>令和3年3月</p> <p>令和3年</p>	<p>日本精神科看護学術集会誌, 60(2)</p> <p>東北文化学園大学看護学科紀要, 8(1)</p> <p>北日本看護学会誌, 23(1)</p> <p>東北文化学園大学看護学科紀要, 10(1)</p> <p>日本精神科看護学術集会誌, 63(2)</p>	<p>精神科に長期入院している患者を地域へと移行させるために、その意向がある看護職の特徴を明らかにした。 A4版, p367-371 データ分析担当 ○野崎裕之, 甲賀ひとみ, 吉村直仁, 祥雲 直樹</p> <p>東日本大震災の被害をうけた地域に設置されている保育所・幼稚園に通う幼児をもつ保護者を対象に調査を行い、幼児と保護者に対する支援の必要性が示唆された。 A4版, p13-18 データの分析、論文作成担当 ○祥雲直樹, 大池真樹, 鹿野裕美, 他</p> <p>介護老人保健施設の看護職が療養者の在宅復帰支援を推進することで、介護職のワーク・エンゲイジメントを向上させることができる可能性がある。 A4版, p9-18 調査、データの分析、論文作成担当 ○祥雲直樹, 後藤順子</p> <p>オンデマンド配信による遠隔授業実施に至るまでの取り組みについて、教員と学生それぞれの課題を提示した。 A4版, p17-25 調査、データの分析、論文作成担当 ○村上大介, 祥雲直樹, 大崎真</p> <p>地域における精神看護活動では、自助や互助に対する具体的な施策が挙げられていない。看護基礎教育を行う際には具体的な事例等を紹介しながら、地域包括ケア担う一員であることを伝達していく必要がある。 A4版, p89-93 調査、データの分析、論文作成担当 ○祥雲直樹, 松田優二</p>

6. 介護老人保健施設に勤務する看護職のワーク・エンゲイジメント；役割葛藤、役割の曖昧さと組織要因への影響	単	令和4年7月	日本老年看護学会誌, 27 (1)	介護老人保健施設の看護職のワーク・エンゲイジメントが、役割ストレスや組織要因に与える影響について調査を実施した。ワーク・エンゲイジメントを向上させることで、役割ストレスを低下させること、キャリア支援を享受する素地を醸成させることが考えられた。 A4判, p57-65 調査、データの分析、論文作成担当 ○祥雲直樹
7. 介護老人保健施設に勤務する看護職のワーク・エンゲイジメントに影響を与える役割認識；東北地方2県の調査結果	単	令和5年7月	日本老年看護学会誌, 28 (1)	介護老人保健施設の看護職のワーク・エンゲイジメントに影響を与える要因として、職場継続意思があること、高齢者の尊厳を尊重すること、療養者の生活に寄り添った看護を提供すること、があげられた。 A4判, p80-88 調査、データの分析、論文作成担当 ○祥雲直樹
8. 東日本大震災後の保育所(園)ならびに幼稚園における保育者の健康状態 震災から7~9ヵ月後の質問紙調査より	共	令和6年3月	東北文化学園大学看護学科紀要, 13 (1)	東日本大震災後の7~9ヵ月経過時点で、保育所(園)ならびに幼稚園で幼児の保育にあたっていた保育者のPTSD関連症状を含む健康状態について調査を実施した。PTSDリスクについては、内陸部よりも沿岸部が有意に高く、また沿岸部において経済状況の悪化が精神的に影響を与えていることが示唆された。 A4判, データの分析 ○大池真樹, 三上千佳子, 遠藤昭美, 祥雲直樹
9. A県建設会社Bの建設工事従事者の健康観(第1報) グループ・インタビューで自己の健康を認識するプロセス	共	令和6年2月	医療創生大学研究紀要, 37(4)	建設工事従事者の健康観を明らかにするために、グループ・インタビューを実施した。保健医療従事者は、対象が無意識に行っている健康行動を評価し伝えること、仕事のやりがいや周囲との良好な関係性が健康につながっていることを踏まえてかかわっていく必要があると示唆された。 p33-40 データの分析 ○中林 誠, 栗原淳子, 祥雲直樹, 南龍馬, 大平久美子
10. 肥満症・メタボリックシンドロームへの保健指導の現状と課題 文献レビューを通しての考察	共	令和6年2月	医療創生大学研究紀要, 37(4)	肥満症への保健指導の現状と課題を明らかにするために、2008年から2023年までの文献18件についてレビューを行った。多くの研究がセルフマネジメントの考え方に準拠しており、それが実践できるように対象者に働きかけを行っていた。 p41-50 データの分析 ○中林誠, 栗原淳子, 祥雲直樹, 大平久美子, 南龍馬
11. 東日本大震災被災地における精神科看護師の循環型支援に関する研究報告	共	令和6年2月	医療創生大学研究紀要, 37(4)	医療人材の偏在により、看護職が不足する医療施設において3名の看護師が循環して支援を行う循環型看護師支援を行った。精神科看護を専門とする看護師が支援を行ったことで、精神症状を呈する患者を全人的に理解する精神科看護の視点が提供できた。 P51-58 調査 ○野崎裕之, 伊勢野明美, 祥雲直樹, 高原円
12. 地域生活を営んでいる統合失調症患者の睡眠覚醒リズムに焦点をあてた実証研究	共	令和6年9月	日本精神科看護学術集会誌, 66 (2)	統合失調症患者における睡眠への新たな介入プログラム構築への示唆を得るために、統合失調症患者3名を対象にMicro Tag活動量計を使用した睡眠効率などの評価を行った。対象者は睡眠覚醒リズムに課題を抱えていることが明らかになっている。 P74-78 分析 ○野崎裕之, 伊勢野明美, 都田直樹, 祥雲直樹, 縦山定美, 大森徹, 鈴木和, 高原 円

13. 精神科看護師の職務上のストレスに関する文献研究	共	令和7年9月	日本精神科看護学会誌 67(2)	文献レビューにより、精神科看護師の職務上のストレスは、「看護業務」「内面的要因」「看護師のおかれる環境」「患者・家族との関係」「倫理・道徳的側面」「患者からの加害行為」などの要因が関連することが示唆された。 p62-66 調査、分析、論文作成 ○祥雲直樹, 野崎裕之, 伊勢野明美, 都田直樹
<p>(その他)</p> <p>1. 東北大学大学院医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座実績報告書</p> <p>2. 老健に勤務する看護職と介護職のワーク・エンゲイジメント</p> <p>3. 介護老人保健施設に勤務する看護職の役割とワーク・エンゲイジメントの関連性-看護職及び介護職の看護職の役割認識による比較-</p> <p>4. 病態関連図を用いた指導方法における一考察 心不全の病態関連図を通して</p> <p>5. 介護老人保健施設に勤務する看護職の役割とワーク・エンゲイジメント-役割認識と役割ストレスに着目した研究</p>	<p>共</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>共</p> <p>単</p>	<p>平成28年10月</p> <p>平成31年3月27日</p> <p>平成31年3月</p> <p>令和3年3月</p> <p>令和4年3月</p>	<p>東北大学大学院医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座</p> <p>医療福祉教育研究会 2018年度学術集会 (仙台市)</p> <p>山形県立保健医療大学大学院修士論文</p> <p>東北文化学園大学看護学科紀要, 10(1)</p> <p>山形県立保健医療大学大学院博士論文</p>	<p>循環型看護師支援の実践報告を行った。循環型看護師支援は、人材確保に難渋する地域医療施設にて、1人あたり4ヶ月間勤務し、3人の看護師で1年間を通して支援する取り組みである。そして、循環型看護師支援は、単に看護師業務の提供のみならず、業務変化や改善への新たな視点を生み出す可能性があることを述べた。 ○石井正, 清元秀泰, 児玉栄一, 宇佐美修, 伊藤大亮, 五十嵐康広, 由浪有希子, 祥雲直樹, 野崎裕之.</p> <p>老健に勤務する看護職と介護職を対象に、職場に肯定的に向き合うことを示すワーク・エンゲイジメントを調査した。看護職では年齢が、介護職では資格を複数保有していることが、ワーク・エンゲイジメントの向上に有用であると示唆された。 ○祥雲直樹</p> <p>介護老人保健施設に勤務する看護職と介護職が認識する看護職の役割について調査を行った。看護職及び介護職の、仕事に向き合う肯定的な感情を示すワーク・エンゲイジメントを向上させるためには、看護職の役割を明確にする必要があることが示唆された。 A4版 (総頁数36頁)</p> <p>看護基礎教育では関連図を用いた指導が行われているが、その指導方法については明確な決まりはなく、指導者の思考に依拠することが考えられた。 A4版, p43-49 ○祥雲直樹、村上大介</p> <p>介護老人保健施設に勤務する看護職のワーク・エンゲイジメントと役割認識、役割ストレスの関係について調査を行った。看護職のワーク・エンゲイジメントを向上させることで役割ストレスを軽減させることができること、高齢者の生活に寄り添った看護を提供することで看護職のワーク・エンゲイジメントを向上させる可能性があることが示唆された。 A4版 (総頁数62頁)</p>